

# ME室

技士長 高室 昌司

## ME室の歩み

ME室は平成2年の11月に一部門として独立しました。世間ではME室という独立した部署がある病院はまだ珍しく、非常に画期的なできごとでありました。

その後間もなくして、2名ほど技士が増えましたが、まだ透析の業務を行う技士に過ぎませんでした。しかしその後は心臓外科OPENを機に、OP室での業務とICUでの業務が加わり、さらにカテ室での業務も、と現在のME業務の様相を呈してきた時期でもありました。当時は、開院してまだ間もないということもあり看護師さんの数も非常に少なく、ICUなどは3西病棟の看護師さんが兼務されておりました。(1名で)このような非常事態の中で「患者さんのために」少しでも看護師さん達のお役に立てれば・・・と、ということで院長先生から、「MEはICUで、患者さんの手でも握っとれ～」と御指示があり、看護師さんが他の患者さんを看てる間はMEが代役を勤めていたりましたものでした(笑) その後も徐々に業務の幅を広げていき、平成3年頃(?)、皆様方のご理解を得、“ME室独立”に相成りました。臨床工学技士という資格は当時はまだ歴史が浅かったということもあり、臨床工学技士を独立した一部門として認めている病院は少なく、そういった中で当院が他の施設より先駆けてMEとして独立させて頂いたことは非常に名誉なことでもあり、また喜ばしいものでもありました。その後も、内視鏡・高気圧酸素治療などの業務にも関わることができ、“general”なMEとして確立していくこととなりました。今では総勢23名、2010年の9月に新病院(岡本)に移転し更に業務も拡充し関連施設の葉山ハートセンター、湘南厚木病院、榛原総合病院への応援等、関連病院への研修など、幅広く活躍する場を与えられております。また、海外での活躍としてアフリカ、東南アジア、東ヨーロッパでの医療支援に参加し貴重な経験をさせていただ

きました。

今後も今まで培った経験、またこの置かれた環境を生かし、患者様に最善の医療が提供できるよう他の医療スタッフとも協力し合い頑張っていきたいと思っております。

## 2014年 ME室学会発表

1. 福壽彰：コバメッドRFアナライザーを用いた電気メスの保守管理について。医工学治療学会，名古屋，2014，3.
2. 満岡宏介：当院の遠隔モニタリングシステムの現状。日本臨床工学技士会，仙台，2014，5.
3. 猪俣隼人：透析液水質検査における動画マニュアルの導入。日本透析学会学術大会，神戸，2014，6.
4. 牧野翔太：脳卒中センターにおける高気圧酸素療法を振り返って。脳卒中治療研究会 大磯セミナー，大磯，2014，7.
5. 種山かよ子：末梢血幹細胞移植への臨床工学技士の役割。日本アフエレーシス学会，東京，2014，9.